

## UAE の火星探査機打上げ成功における日本の協力 ～JAXA 若田宇宙飛行士へのインタビュー～

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 特別参与・宇宙飛行士 若田 光一  
(8月18日インタビュー)

聞き手：中東協力センター 審議役 三束 尚志

**【三束】**：本日は，国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 JAXA 様の特別参与・宇宙飛行士，ならびに UAE 宇宙庁の諮問委員もしておられる若田光一様に，リモートでのインタビューをさせて頂けることとなり，誠にありがとうございます。

私共，中東協力センター (Japan Cooperation Center for the Middle East:JCCME) は1973年10月，第1次オイルショックの最中に，当時の通商産業省と資源問題に関心の高い財界の方たちによって設立された，経済産業省系の財団法人です。

日本と中東産油国の経済あるいは投資活動のみならず，人材育成・人的交流や多面的な関係強化・深化を目的に，日本企業の中東進出のご支援，あるいは国内外の産官学の各方



JAXA 種子島宇宙センターからの UAE 火星探査機打上げ  
©Mitsubishi Heavy Industries, Ltd

面への働き掛けや情報収集・発信に努めさせて頂いております。

中東・北アフリカの、北はトルコ、南はスーダン、東はアフガニスタン、西はモーリタニアと22カ国・地域の産油国に対し、様々な働き掛けをしております。中でも特にサウジアラビアと UAE、イランを重点国として位置付けております。

今般の UAE 初、また中東初となる火星探査機 HOPE の打上げが、JAXA 様はじめ日本の官民の多大なご協力支援・ご貢献の元、成功したということは、来年の UAE 建国50周年の節目を前に、両国の関係強化にとって極めて意義が大きいと我々は理解させて頂いており、JCCME としても大いに関心のあるところです。

**【三束】**：さて、先月（7月）UAE の火星探査機 HOPE（アラビア語では Al Amal）が、鹿児島県 JAXA の種子島宇宙センターから三菱重工業(株)様のロケットで打上げられ、火星に向かう軌道に無事乗ったということで、ご成功誠にありがとうございます。

大変遠い距離、4億9,500万キロ、時速12万キロで200日ということで、惑星間のチャレンジングな旅を克服して、UAEがまさに建国50周年を迎える2021年2月頃、火星の周回軌道に到達すると伺っており、大いに期待しております。

私事で恐縮ですが、12歳の夏、アポロ11号「イーグル」の月面着陸の中継映像や「小さい一歩だが、人類の偉大な跳躍である」という船長の言葉にしびれ、さらに同年にはJAXA



UAE の火星探査機「HOPE」  
Mohammed bin Rashid Space Centre (MBRSC) ホームページより

の前身、NASDA が設立されたことで、わくわくした世代でもあります。

このHOPE計画は、UAEのハリーフア大統領とムハンマド首相の発案による6年越し、総額2億ドルと報道されていた旨、理解しております。その一大国家プロジェクトである探査機は、UAEのモハメド・ビン・ラシッド宇宙センターが150名のエミラティの方たちを動員し、アメリカのコロラド大学およびカリフォルニア大学の多大な協力を得て開発したと報道されております。

**【若田 JAXA 特別参与 (以下, 若田特別参与)】**:そうですね。このHOPE計画自体がUAEの独自の計画ですので、今回 UAE が火星の探査機を打上げ、且つ中東初の火星探査への挑戦という意味では非常に意義深いものと感じています。

まさに三束さんが12歳の時のアポロ11号の月着陸のお話をされましたが、実はこの打上げは51年前の7月20日でした。アポロ計画が米国、そして世界中に与えた影響は非常に大きいと思いますが、このUAEの初めての火星探査機が7月20日という有人月面着陸の記念すべき日に打上がったということは、今回の火星探査機の打上げがこれからの50年に及ぼす影響を展望する点で感慨深いものであるとUAE関係者も話していました。

アラブ諸国、中東初の火星探査への挑戦であり、このようなマイルストーンとなる記念すべき日に打上がったということ、それがUAE、そしてアラブ諸国の皆さん、特に若い世代に与える影響は大きいと感じております。

日本の信頼性の高いロケットが、UAEにとって非常に重要なこのミッションの打上げ機として貢献したことは、日本としても大きな意義があると思います。

**【三束】**:ありがとうございます。そうですね、まさに7月の奇しくも20日でした。

**【若田特別参与】**:そうですね。

**【三束】**:UAEは国の威信をかけて宇宙開発、さらに火星移住にも取組んでいるというよう



JCCME 撮影

な報道も少し前に見受けております。UAEの今までの宇宙開発の取組状況について、ご存じの範囲でご教示頂ければと存じます。

**【若田特別参与】**:この件に関しましては、三束さんの方が専門的に詳しいと思いますが、UAEはエネルギーの資源依存という状況から脱却を進めており、その急速な産業構造の転換を図ってという状況であると認識しております。その中でUAEが宇宙分野にも重点を置いて、6年ほど前になりますが、2014年に宇宙機関を設立しています。

UAEは人材育成にも注力していますが、仰られたように、国家プロジェクトとして火星探査計画を推進して、UAEによる火星移住計画である「Mars 2117」計画の立上げ、また2019年には、UAE初の宇宙飛行士であるハッサ・アル＝マンズーリー氏が国際宇宙ステーションに滞在する等、積極的に宇宙活動を進めている状況です。

今回、日本がUAEの火星探査ミッションで協力しているわけですが、日本として官民挙げてUAEの宇宙計画の立上げを支援して来ているという状況であり、今回の火星探査機、HOPEミッションに関しては、その打上げを三菱重工が受注してミッションの重要な一端を担い、JAXAはUAEの宇宙活動を技術面、そして人材育成といった面から支援してきている状況です。

**【三束】**:ありがとうございます。UAEがトップを切っている感じもありますが、UAE以外の中東諸国、例えばサウジアラビアや、中東で北の大国であるトルコ、こういった国々の取組はどのような現状でしょうか。

**【若田特別参与】**:中東において現時点でJAXAが協力関係を締結しているのは、UAEとトルコの2カ国です。



JCCME 撮影

トルコについては、通信衛星や地球観測衛星を国が調達するなど、宇宙分野で大きな国家資金を投入しているという状況です。2019年には、トルコの宇宙庁が設立されています。その設立を通して国内体制を整備し、本格的に宇宙活動に取り組むための準備を進めています。

日本政府は官民挙げてトルコの宇宙活動や人材育成を支援し、三菱電機(株)が受注したトルコ衛星の開発にあたっては、トルコの技術者がJAXA 筑波宇宙センターに来られ、衛星試験プロセスに関する研修を受けられました。

この衛星はTurksat-4AとTurksat-4Bの2機で、共に通信衛星です。それぞれ2014年及び翌年の2015年に、ロシアのロケットで打上げています。

サウジアラビアについては、2018年12月にサウジ宇宙委員会 Saudi Space Commissionが新たに創設され、国家戦略の策定を行っている状況です。サウジアラビアは、アラブ宇宙協力グループ ASCG のメンバーです。これは2019年3月に署名され、サウジアラビアをはじめUAE、ヨルダン、バーレーン、アルジェリア、スーダン、レバノン、クウェート、モロッコ、エジプト、オマーンの11カ国から構成されています。ASCGは、アラブ地域の宇宙活動の推進を目的に形成されたグループで、UAEが主導して上げたもので、現在UAEが議長国となっています。

**【三束】**：今伺った ASCG の11カ国は、いずれも JCCME が大なり小なり色々支援している国ということで、濃淡はあるとは思いますが、多くのアラブ諸国が宇宙開発に関心を持っていることは非常に心強いと申しますか、我々としても興味深いことです。日本の強みの1つである宇宙開発なり宇宙人材開発なりという点で、ソフト、ハード両面で力を発揮する分野ではないかということで、目からうろこの思いです。どうもありがとうございます。

次に、UAEと日本の協力の現状について、少し詳しく伺いたく存じます。今回の打上げにJAXA様、あるいは三菱重工様など日本の官民が大きく協力したと報じられておりますけれども、日本側の協力は具体的にどのような分野に関するものでしょうか。先ほどの質問と重複するところもありますが、改めてご説明を頂戴したいと存じます。

**【若田特別参与】**：今回の火星探査機HOPEの打上げに関しては、その打上げサービスを三菱重工が受注しました。7月20日の打上げ後の記者会見の中の質疑応答にもありましたが、三菱重工のH-IIAやH-IIBロケットの打上げ実績、サービス実績、そういった点を考慮して、打上げサービスの発注をUAEが行ったと理解しています。また新型コロナの状況下で、移動や滞在に関する制約がある中、種子島で温かい受入れがあったということも聞いており、そういった点もUAE関係者の好印象に繋がっていると思います。

今回の火星探査機HOPEのH-IIA、42号機による打上げに関しても、JAXAはロケットを安全に打上げるための打上安全監理業務および発射場設備の維持保全等の業務を着実



三菱重工 H-IIA 42号機による火星探査機 HOPE 打上げ  
©Mitsubishi Heavy Industries, Ltd

に実行することを通して、打上げ成功に寄与・貢献することが出来たことを嬉しく思っている次第です。

**【三束】**：種子島に COVID-19の大変な時期で、UAE の方たちは実際に何人ぐらいお越しになりましたか。

**【若田特別参与】**：UAE からの来訪者13名に加え、衛星エンジニアが8名、他にメディアが10名いらっしゃいました。

**【三束】**：そうですね、大変な人数ですね。

**【若田特別参与】**：打上げ予定日の2週間前から入国されて、備えてくださいました。天候不良で打上げが遅れましたが、好印象を持って帰って頂いたのではないかと思います。当然、打上げの成功が最も重要な点ですが、打上げ作業を確実に遂行する能力を有する国という印象は、今回また新たに感じて頂いたと思っています。

**【三束】**：ええ、そうですね。いらした20人以上の方たちが、多分間違いなく日本ファンになって帰られたかと期待しております。

**【若田特別参与】**：はい、そうですね。

**【三束】**：UAE と JAXA 様の協力協定というのは、概略どのようなもののでしょうか。

**【若田特別参与】**：日本政府は2015年に宇宙システム海外展開タスクフォースを立上げました。そのタスクフォースの下、UAEとの協力、産業分野での連携が重視され、官民挙げて



「きぼう」日本実験棟の実験を見守る UAE の関係者ら19年9月30日 ©JAXA

UAEの宇宙計画の立上げを支援している状況です。そういった文脈の中で、JAXAは、これまで我々が培ってきた様々な宇宙技術の利用、特に国際宇宙ステーション ISS における「きぼう」日本実験棟の利用や人材育成等の面において貢献できると捉え、2016年にJAXAと UAE 宇宙機関との間で機関間協定を締結しました。

具体的な作業例として、昨年9月にUAE初の宇宙飛行士であるハッサ・アル＝マンズーリー宇宙飛行士が ISS に搭乗して飛行した際に、JAXAと UAE 共同で、「きぼう」日本実験棟の中で UAE 宇宙飛行士による教育イベントを実施しました。

**【三束】**：ありがとうございます。JCCME としても、我々の立場から経済開発と並んで人材開発を、車の両輪と呼んで重視しております。UAEの宇宙開発において人材開発、人材教育に対する日本側のご協力が具体的にどのようなものであったか、あるいは現在形、未来形もあるかと思いますが、それはどのようなものか伺えますでしょうか。

**【若田特別参与】**：先ほど申し上げた昨年9月の UAE 初の宇宙飛行士が ISS 滞在時に「きぼう」日本実験棟で行った教育イベントですが、その軌道上教育イベントに先立って、JAXA職員が講師となって、UAEの学生たちに向けた学習講演会をドバイとアブダビで実施しました。軌道上教育イベントが成功したこともあって、UAE初の宇宙飛行士プログラムへの協力、そして UAE の青少年に多大なる影響をもたらしたこの教育イベントに関して、モハメド・ビン・ラシッド宇宙センター-MBRSC の長官から JAXA 理事長へ感謝状が届きました。

この軌道上教育イベントでは、ドバイにある MBRSC の特設会場でパブリックビューイングも行いました。パブリックビューイングには UAE の青少年約400名が参加し、盛大に開催され、梅澤在ドバイ日本国総領事にもご参加いただき、ご挨拶を賜りました。このように UAE 宇宙飛行士による教育イベントを通して、UAE で高まっている宇宙実験への

関心の中、今回は教育イベントという形で、宇宙への興味を学生たちに持ってもらう良い機会ができたと思います。

その高い関心を、今度は国際宇宙ステーションの「きぼう」日本実験棟での本格的な科学実験に繋げていくことを目標にし、今後、「きぼう」利用に関するワークショップをUAE国内で開催し、更なる協力を通してUAEにおける宇宙関係の人材育成にも貢献していきたいとJAXAとしても考えています。

UAEでは若手育成のために大学で人工衛星の開発を行っていますが、今後、UAEの大学で制作した超小型衛星「きぼう」日本実験棟からロボットアームで放出するミッションを通して、人材育成に更に貢献していきたいと思っており、現在UAE側と調整をしています。

また、現在進行中のものでは、「きぼう」日本実験棟で行う「きぼうロボットプログラミングチャレンジ」があります。これは、JAXAとNASAが開発し、既にISS上にある船内ドローンを使用したプログラミングの競技会です。参加者たちがISS内をふわふわ浮いて移動していく自律飛行型のロボットドローンを動かすプログラムを作成し、「きぼう」船内で障害物をくぐり抜けて進むような課題対応力や、移動のために要する時間に関して競うもので、これにUAEの学生38チームが参加しています。以上の例のような取り組みを通して、JAXAはUAEにおける宇宙の人材育成を支援しています。

**【三束】**：大変なチーム数ですね。

**【若田特別参与】**：約200名のUAEの学生が参加しています。38チームの中から1チームが6月14日にUAE内の予選で選抜され、現時点で10月頃になる見込みですが、「きぼう」日本実験棟の中で実機を使った本選が行われる予定です。

6月のUAEでの予選イベントに、私もオンラインで参加しスピーチを行い、参加する学生さんたちを激励させて頂きました。

**【三束】**：伺っているだけで、エキサイティングでわくわくします。

**【若田特別参与】**：そうですね、ロボットコンテストは学生、世界各国の皆さんが興味を持っている分野だと思います。UAEにも優秀な学生が多く、非常に盛上がっているという印象です。

**【三束】**：「きぼう」の船内、これは宇宙空間で、いわば魔法瓶の中に空気が入って、その空気をプロペラでかき回してスッと移動していくものですか。初歩的な質問で恐縮です。

**【若田特別参与】**：はい、おっしゃるとおりです。JAXAが開発したInt-Ballと、NASAが開発したAstrobeeというドローンがありますが、それぞれドローンロボットの中には小さなファンが付いていて、空気を押し出してその反作用で動きます。地上ではその程度の空気力では当然浮き上がることはできないのですが、ISSでは無重量環境ですので、空気を押し出してドローンの位置と姿勢を制御して移動する事が可能です。



**【三束】**：すごい。とても高度な技術で、ブレーキをかける時にも非常に繊細でデリケートな、何か想像を超えた感じがします。

**【若田特別参与】**：学生さんたちが懸命に競い合って素晴らしい成績を出してくれているので、間もなく行われる宇宙での本選が楽しみです。

**【三束】**：貴重なお話をありがとうございます。今のように、非常にポテンシャルが高いという UAE の学生たちの話を伺うと、頼もしく思われます。

一方、我々JCCMEの活動においては、製造業などで、UAEあるいはサウジアラビアなどに進出する日系企業に対し、進出前後でのご支援をさせて頂いております。そこでは、進出前にもご苦労されていますが、進出後、特に製造現場においてアラブ人の人材教育に大変苦労されています。しかし、宇宙開発においては、現地のトップエリートで、士気も能力も高く、人材育成のご苦労は最小限なのかと感じますが、如何でしょうか。

**【若田特別参与】**：私も米国在勤時に、海外で製造業に携わっている企業の方々から、現地の色々な作業のクオリティーについてお話を伺う機会がありました。日本人であれば当然と思われる人の動きが、海外では期待出来ないというお話を伺ったこともあり、多くの皆さんがご苦労なさっていると理解しています。我々は宇宙の分野で UAE の皆さんと色々な仕事をさせて頂いておりますが、UAEの宇宙関係者の士気と能力は非常に高いという印象を持っています。

ただ、UAEは宇宙に関しては新興国であり、宇宙先進国に比べるとまだ少人数で宇宙開発を行っている状況ですので、例えば、今回の火星探査機を打上げるような大きなプロジェクトが佳境に入ると他の作業の人材が不足してしまうようなケースというのはあり得ると思います。しかしながら、様々な難しい課題を迅速なテンポで実現し続けている UAE の宇宙関係者は、国の機関であれ、産業界であれ、士気と能力の高い集団であると感じています。

特に、女性の進出が UAE は著しいと思います。女性の技術者たちが、教育プロジェクトも活発に推進しているという印象を持っています。例えば、今回HOPE火星探査機の打上げのために来日なされた UAE のサラ・ビン・ユシフ・アル・アミリ先端技術担当大臣は技術者出身の女性です。今回、彼女の様々な記者会見での対応や、日本側の代表者の方々とお話をされている様子、UAEのチームの皆さんをリードする様子を何度も拝見しましたが、優れた若いリーダーシップを発揮していらっしゃるよう見受けられました。

実際に UAE の宇宙産業全体の中での女性の割合は、報道等で見ると、2018年時点で4割程度であり、他国の平均値と比較しても UAE では女性の宇宙産業での活躍の割合は高いようです。現在私は UAE 宇宙機関の諮問委員を担当させて頂いておりますが、諮問委員会に示された UAE 宇宙機関の人数構成のデータにも、約4割が女性であることが記載さ



JCCME 撮影

れています。女性の活躍が、宇宙開発に参加している他の国よりも高い水準で実現されているというのも、UAEの1つの特徴だと思います。

**【三束】**:非常に貴重なお話です。サウジアラビアなどもそうですが、アラブの女性たちは、例えば起業家精神、アントレプレナーシップも旺盛で、小さくても自分のビジネスを持ちたいという人が多い。日本で100社起業すると、女性が起業する企業はわずか1～2%と聞いています。それに対して中東の中でも湾岸、サウジやUAEは、逆に1割を超えるような非常に高い、実業界においてはそういう状況です。

**【若田特別参与】**:なるほど、そうすると、そういったところが、宇宙開発においても大きく力を与えているというところですね。

**【三束】**:はい、頼もしいですね。

**【若田特別参与】**:そうですね、頼もしいと思います。

**【三束】**:今後の宇宙開発のポテンシャルという点に関し、伺います。200日後、めでたく周回軌道に乗る、あるいは火星探査が成功ということになると、建国50周年の節目もあってUAEが一気に自信を深め、独りよがりではなくて、国際的な評価も高まると期待されるかと思います。従って、それに官民挙げて協力した日本としても、協力支援が報われるところではないかと存じます。

宇宙開発におけるUAE、あるいは中東、トルコなど他国でも良いのですが、その中東諸国の今後のポテンシャルがどのようなものであるか。それに対して、日本としてどのように新たな協力を展開することが期待されるのか、これについてお話を伺えればと存じます。

**【若田特別参与】**:今後のポテンシャル、日本としてどういったところで協力を展開することが可能か、期待できるか。まずUAEに絞って現状分析のところから考えてみたいと思

います。

宇宙に関しては、大きく5つの側面があると思います。1つが、宇宙計画の「急速な発展」という状況、次に、先ほどからお話ししている「教育や人材育成」、続いて「UAE国民の宇宙に対する理解」、さらにアラブ・中東といった「地域協力」、最後に「国際プレゼンス」の向上といった、大きく5つの側面です。

最初の「宇宙計画の急速な発展」という点では、UAEが2014年に宇宙機関を設立して、火星探査計画という国を挙げて大志ある計画を進めているという状況が挙げられます。2018年には国産の地球観測衛星Khalifa Satを打上げています。この衛星も日本のH-IIAロケットで種子島から打上げました。更にUAE初の宇宙飛行士のISS搭乗も昨年実現し、今年7月の火星探査機HOPEの打上げと、UAEは短期間で着実に宇宙事業を進めています。「教育・人材」という観点では、今回の火星探査ミッションでも、科学的な目的と共に次世代の人材育成・教育を重要な目標の1つに挙げていることが注目すべき点であると言えます。

「国民の理解」という点に関しては、宇宙計画を実現していく中で、国民の理解は不可欠です。昨年のUAE初の宇宙飛行士のミッションに続いて、直ぐ翌年には火星探査機を7月に打上げることで、UAEの国民に対して宇宙を身近に感じてもらえるような印象づけが効果的に進められていると思います。

「地域協力」という点では、アラブ宇宙協力グループASCGを立ち上げ、UAEが議長国を務めていることで、アラブの宇宙開発を牽引しようとしている強い意志が伺えると思います。

最後に「国際プレゼンス」の点では、2020年6月、国際連合の宇宙部との間でUAE宇宙機関が長期的な宇宙活動や持続可能な開発のための宇宙利用の促進に関する協定に署名をしています。国連との連携を含め、国際的な場においてもUAEが存在感を高めつつあると分析しています。

こうした状況の下、日本としてどんな新しい協力の展開が期待できるかというご質問に戻りますが、我が国が有する世界でも有数の信頼性の高い打上げ能力、具体的には今回のH-IIAや、イプシロンロケットであったり、現在開発中のH3ロケットによる打上げ能力による協力、また通信や地球観測等の分野での世界最高水準の人工衛星技術等による協力の推進が挙げられます。

また、国際宇宙ステーションを通して獲得してきた有人宇宙活動の技術、そして、日本のお家芸とも言えるような、「はやぶさ」や「はやぶさ2」に代表される科学探査等、日本の強みを活かした分野での協力が、これまでもそうでしたし、今後も大きく期待出来ると思います。

新しい取組では、月や火星へと人類の活動領域を拡大する国際宇宙探査が挙げられると

思います。宇宙の探査は、新しいフロンティアを探索する、人類として究極の挑戦です。各国それぞれが単独で行うのではなく、地球規模で最先端の技術を結集することにより達成し得るものです。その過程を通して国際協力、各国が連携していくということが非常に重要になっています。

UAEは着実に宇宙の活動を推進し、それを支える技術、マネジメント能力等を着実に高めてきていますので、今後の更なる発展へのポテンシャルは高いと思っています。従って、新しい分野である国際宇宙探査に向けたUAEとの連携づくりも推進していくべきところだと思っています。

昨年10月には日本政府による国際宇宙探査への参画方針を、安倍首相が宇宙開発戦略本部で決定されたことが伝えられました。国としてのコミットメントの状況も踏まえて、国際宇宙ステーション、それから今後、月周回の拠点となるゲートウェイや、月面を含む有人宇宙探査活動においても、今後さらにUAEとの連携・協力を期待しています。

**【三束】**：力強いお話、どうもありがとうございます。夢が膨らみます。今後も、UAE・中東地域における日系企業の経済活動に対して、若田様からお話が上がった宇宙の分野でも、我々としてご支援するような接点が出るのではないかと、大いに意を強くさせて頂いた次第です。

**【若田特別参与】**：ありがとうございます。三束さんをはじめJCCMEの皆さん方も、広範囲にわたってUAEとの経済分野での交流、関係強化を進めていらっしゃる、私も存じ上げていなかった事も多く、本日も大変勉強になりました。象徴的な意味も含め、宇宙分野での協力は、日本とUAE両国の関係をより深いものにしていくために重要な分野だと思います。ぜひ、これからも宇宙の分野で協力を進めて参りたいと思いますので、引き続きアドバイスを頂ければと思います。

**【三束】**：こちらこそ、何か少しでもご協力できそうな、可能性だけでも結構ですので、引き続きよろしくお願い致します。

**【若田特別参与】**：はい、こちらこそ本当によろしくお願い致します。

**【三束】**：ちなみに、例えば諮問委員としてUAE、ドバイ・アブダビなどに行かれる機会はいかがでしょうか。

**【若田】**：1年に1回程度は諮問委員会があって実際にUAEでの委員会でお話する他に、世界中の宇宙庁長官等をはじめ宇宙関係者が集う会議の機会が年に複数回あり、そういった場でもUAE宇宙機関やMBRSCの代表者の方々とお話しする機会があります。

このように通常UAE宇宙関係者との交流機会は多いのですが、今年の初め以降はコロナの影響で、先ほどの「きぼう」のロボプロチャレンジでのスピーチや、諮問委員としての活動等も、すべてオンラインやメールベースでの活動となっています。諮問委員会自体

もこの3月にアブダビで行われる予定でしたが、コロナの状況でキャンセルされ、次回はいつどのような形式で開くかを調整中です。直接会う機会がいつになるか心配ですが、ぜひ早く実現するよう祈っています。

**【三束】**：実際にお目にかかると、さらにうれしいところですが、本日はリモートインタビューにて、長時間、誠にありがとうございました。

**【若田特別参与】**：こちらこそ本当にありがとうございました。そうですね、ぜひコロナが終息して、お目に掛かってお話しできる機会があることを楽しみにしています。



ソコル宇宙服を着用する若田宇宙飛行士（2013年） ©JAXA

---

#### 若田宇宙飛行士略歴

埼玉県大宮市（現在：さいたま市）出身。

1987年 九州大学工学部航空工学科卒業。2004年 同大学院航空宇宙工学博士課程修了，工学博士。1989年 日本航空(株)入社。

92年4月 国際宇宙ステーション (ISS)・「きぼう」日本実験棟の組立・運用に備え NASDA (現 JAXA) が募集の宇宙飛行士候補に選ばれる。

93年8月 NASA よりミッションスペシャリスト (搭乗運用技術者：MS) として認定。

96年1月 スペースシャトルミッションに日本人初の MS として搭乗。

2000年10月 ISS 建設ミッションに MS として搭乗 (日本人初の ISS 建設参加)。

09年3月～7月 「きぼう」日本実験棟の最終組立ミッションで ISS に約4ヶ月半，日本人初の長期宇宙滞在。

13年11月～14年5月 長期滞在クルーとして ISS に約188日間滞在。滞在中，日本人初の ISS 船長 (コマンダー) に就任。

合計4回の宇宙飛行で総宇宙滞在時間は347日08時間33分となり，日本人最長。

16年4月～18年3月 JAXA ISSプログラムマネージャ (宇宙飛行士として世界初)，有人宇宙技術センター長および宇宙飛行士を兼務。

18年4月～20年3月 JAXA 理事 (有人宇宙技術部門，宇宙探査イノベーションハブ，国際宇宙探査担当) および宇宙飛行士を兼務。

20年4月 JAXA 特別参与・宇宙飛行士就任

詳細は JAXA ホームページ (下記リンク) ご参照

<https://iss.jaxa.jp/astro/wakata/>

---